

第1号議案資料

2023年度事業報告書及び決算報告書

2023年度事業報告書及び決算報告書

A. 事業報告

循環型社会の構築を目指し、行政・消費者・産業界が緊密な連携のもとに3R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再資源化、再生利用）活動を推進し、資源の循環利用を進めることを目的として、活動を行った。

2023年度は、コロナ禍が落ち着いてきたことに伴い、経済活動が元の活発さを取り戻しつつある。その中で、サーキュラーエコノミー（循環経済）に向けた活動等も多く目にするようになってきた。

協議会ではここ数年、3R推進功労者等表彰においては、資源循環をパートナーシップで実現した活動、また脱炭素やSDGsなどとの同時達成を実現した活動なども推薦募集の対象に含まれることを募集案内等の中で謳っており、そのような活動も表彰している。これらの受賞活動は、総会後の優秀3R推進活動発表会で紹介した。

他には、3R活動推進フォーラム（現 3R・資源循環推進フォーラム）との共催セミナーにおいては、サーキュラーエコノミーについての国の施策、企業等の活動を紹介してきた。

企画運営委員会においては、年次の活動とは別に、中期的な観点で協議会の活動を見直しをしていて、サーキュラーエコノミーに向けた資源循環の中で協議会の活動をどのように役立てるか、3Rをどのように高度化するかなどの検討を始めている。

個々の事業については、次ページ以降のとおりである。

2023年度事業報告書及び決算報告書

1. リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰の実施

3Rに率先して取り組み、顕著な実績を挙げている個人・グループ・学校・事業所・地方公共団体等を表彰する「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」を実施した。

2023年3月に推薦要領を協議会会員団体、都道府県、政令指定都市、中核市、特別区、建設副産物対策地方連絡協議会に配付し募集を行った結果、23推薦機関（前年比3機関増）から84件（前年比6件減）の応募があった。

審査委員会（委員長 東京大学名誉教授 木村文彦氏 他13名）において厳正な審査を行った結果、内閣総理大臣賞1件（「事業所・地方公共団体等」分野のみ）、経済産業大臣賞2件、国土交通大臣賞4件、環境大臣賞3件、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞18件、計28件（前年比2件減）を表彰するとの結論に至り、10月30日（月）に東京・竹橋のKKRホテル東京において表彰式を挙行了。

表彰式は、受賞者、同行者、推薦機関、報道機関含めて、87名のご出席があった。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症に移行したものの、根絶したわけではないため、人と人の接触を最小限に抑える動線や座席レイアウト設計などの対策を施した。

2023年度事業報告書及び決算報告書

(1) 受賞者

内閣総理大臣賞（1件）

「事業所・地方公共団体等」分野（1件）

社会福祉法人 勇樹会

※「個人・グループ・学校」分野は該当なし

経済産業大臣賞（2件）

「事業所・地方公共団体等」分野（2件）

株式会社リコー 環境事業開発センター OC事業本部 グローバルリユースリサイクルセンター
／ 株式会社リコー 沼津事業所 CMC事業本部 第一トナー事業センター（二者連名）

東京ガス横浜中央エネルギー株式会社

国土交通大臣賞（4件）

「事業所・地方公共団体等」分野（4件）

鹿島建設株式会社 九州支店（仮称）宮古島トゥリバー地区ホテル計画新築工事

（株）鴻池組・熊谷建設（株）特定共同企業体 小本川災害復旧工事

前田建設工業株式会社 ／ 東明興業株式会社（二者連名）

株式会社ガイアート

2023年度事業報告書及び決算報告書

(1) 受賞者 (続き)

環境大臣賞 (3件)

「事業所・地方公共団体等」分野 (3件)

日本製紙株式会社 / 特定非営利活動法人 エコライフはままつ (二者連名)

東和ケミカル株式会社

株式会社HIKONE化成

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞 (18件)

十和田市立高清水小学校

豊後高田市立戴星学園

キューピー株式会社

平田運輸株式会社

株式会社田澤洋紙店 八戸営業所

トーヨーリトレッド株式会社

株式会社竹中工務店 北関東支店 TSRC大宮作業所

鹿島建設株式会社 北海道支店 さらきとまない風カリプレース工事事務所

鹿島建設株式会社 横浜支店 (仮称) 鶴見研修センター新築工事事務所

鹿島建設株式会社 関西支店 神戸旧居留地91番地工事事務所

西松建設株式会社 西日本支社 中部支店 滋賀湖南出張所

成友興業株式会社

2023年度事業報告書及び決算報告書

(1) 受賞者（続き）

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞（続き）

太田おもちゃ病院

くあい こやしばの会

特定非営利活動法人あそびとまなび研究所

皆川 千里

イオンモール株式会社 イオンモール座間 / 株式会社大久保 / コアレックス信栄株式会社
/ 座間市リサイクル協同組合 / 座間市（五者連名）

真岡児童館

各受賞者の受賞活動は、次のURLで公開しております。

https://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/jisseki/jisseki_r05/

2023年度事業報告書及び決算報告書

(2) 表彰結果の広報

受賞者の受賞した活動の概要をまとめた「令和5年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰結果発表」冊子を600部作成した。

部数は前年度に比べて大幅に減らしている。理由としては、対面式のイベントがほとんどなくなり、冊子の配布の機会が減っていること。また、プレスリリース時の資料配布を紙媒体ではなくPDFなどの電子媒体にするよう、記者クラブから指示があったためである。これらに伴い、印刷部数を大きく見直した。

(3) 次年度に向けた対応

表彰件数は漸減傾向にあり、推薦募集件数の増加のための方策については、審査委員会において継続的に審議している。

表彰制度の開始当初（1992年）から比べて、資源循環が高度化しており、受賞するレベルが高くなっていることから、推薦するハードルも高くなっていると考えられる。その一方で、サーキュラーエコノミーに向けた動きが活発になっており、これまでになかった新しい形の資源循環の活動が生まれていることから、こうした活動が推薦されるように募集時の案内等を工夫していく余地があると考えている。

2023年度事業報告書及び決算報告書

(4) スケジュール

募集の期間を長く置くために、前年度から募集を開始している。

<2023年度（令和5年度）の表彰の主な実績>

3月 3日	推薦募集開始（ホームページ等での告知）
4月17日	推薦募集締切
5月～8月	審査（書面審査、審査委員会）
10月24日	表彰式
12月 5日	次年度に向けての検討（審査委員会）

2023年度事業報告書及び決算報告書

2. リデュース・リユース・リサイクルキャンペーンマークの普及・利用促進

企業・地方自治体・市民団体・業界団体・学校等の要請に応じて、3R実践活動や啓発・教育活動の場でリデュース・リユース・リサイクルキャンペーンマークを広く使用していただくことにより、3Rに対する意識の向上や啓発を図った。

具体的には3R推進功労者等表彰での冊子などで紹介するなどして、3Rに積極的に取り組む企業・グループ・団体等に対して3Rキャンペーンマークの利用を勧め、3R推進のアイコンとしての認知度向上を図ると共に、人々の目に触れる機会を増やして3Rに対する意識の訴求を図っている。

企業等からの申請件数は24件あった。ここ数年は毎年20件前後で推移している。毎年、申請のある企業も数件あるが、初めて申請する企業が多い。

教科書や副教材で紹介していただける機会も増えている。他に自治体からも数件使用したことのお知らせがあった。

2023年度事業報告書及び決算報告書

3. 活動強化策の実施

協議会活動を充実させるべく、活動強化策を継続している。内容については、企画運営委員会で審議の上で実施した。

(1) 企画運営委員会等の開催

1) 企画運営委員会

前年度に引き続き、協議会活動を充実させるべく活動強化策の具体的な内容の検討や意見交換を行った。

<実績>

第1回 2023年 8月10日（オンライン開催）

第2回 2024年 3月 7日（オンライン開催）

（ポスター選考会） 2023年 8月10日（オンライン開催）

次ページに委員名簿を掲載する。

2023年度事業報告書及び決算報告書

<2023・2024年度企画運営委員>

(委員長)	田中 希幸	ガラスびん3R促進協議会	理事・事務局長
(副委員長)	根村 玲子	(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会	環境委員会委員長
(委員)	加藤 聡	一般社団法人ガラス再資源化協議会	代表幹事
	新妻 弘章	建設副産物リサイクル広報推進会議	
	工藤 操	一般財団法人消費科学センター	理事
	高橋 宏郁	スチール缶リサイクル協会	専務理事
	細川 浩之	一般社団法人セメント協会	生産・環境部門リーダー
	横川晋太郎	電気事業連合会	立地電源環境部長
	奥田 篤	一般社団法人日本ガス協会	企画部 エネルギー・環境グループマネジャー
	天川 紀子	一般社団法人日本建設業連合会	安全環境部長
	塚原 正徳	一般社団法人日本産業機械工業会	環境装置部長
	長谷川喜規	一般社団法人日本自動車工業会	安全・環境領域2部 担当部長
	島崎 直昭	一般社団法人日本道路建設業協会	常務理事
	井出 安彦	公益社団法人日本包装技術協会	包装材料研究室長
	富田 齊	一般社団法人プラスチック循環利用協会	広報学習支援部長

また、3R・資源循環に係る省庁のご担当者、オブザーバーとしてご出席いただいている。

2023年度事業報告書及び決算報告書

(2) 企画内容

1) 優秀3R推進活動発表会

前年度の3R推進功労者等表彰の大臣賞受賞者に、受賞の取組や受賞後の発展について発表していただき、行政所管、産業分野を越えて広く共有化、普及啓発を図った。

日 時： 2023年6月5日(月曜日)15:00~16:30

開催方法： オンライン開催 (Webexを使用)

発表者： 株式会社クリエイトエンジニアリング (経済産業大臣賞受賞)

エフコープ生活協同組合 (環境大臣賞受賞)

株式会社黒田工業 (環境大臣賞受賞)

カットショップショー (内閣総理大臣賞受賞)

当日のご講演内容については、協議会ホームページをご参照ください。

https://www.3r-suishinkyogikai.jp/seminar/winners/winners_r05/

2023年度事業報告書及び決算報告書

2) 3R推進ポスターの制作・配布

工場、工事現場、オフィス、流通などのビジネス現場や公共の場において事業者により3R活動の推進を訴求する「3R推進ポスター」を制作し、10月の3R推進月間に合わせて会員団体に配布した。

ポスターのデザインは、協議会主催によるデザインコンテストで公募し、その最優秀賞作品を使用した。

コンテストはデザインを募集するという役割に加え、中学を卒業後、3Rについて学ぶ機会の減った人たちに改めて3Rについて考えていただくという意図もあり、募集に際しては3Rを簡単に紹介したリーフレット『3Rって何だろう?』を案内に同封し、協議会ホームページのコンテンツを紹介するなど、3Rをもう一度再認識していただくように資料等を用意している。

<デザインコンテスト概要>

デザイン募集期間： 2月24日 ~ 5月26日（郵送分）
2月24日 ~ 6月5日（Webフォーム）

応募作品数： 237点

<3R推進ポスター>

ポスター印刷枚数： 500部（A1サイズ）

配付先： 450宛先

- ・協議会会員、地方公共団体は、各1枚
- ・専門学校等は各1枚



2023年度の3R推進ポスター

2023年度事業報告書及び決算報告書

3) イベント等の協業（セミナー、シンポジウムの後援、共催、出展等）

（1）後援

- ・「実践活動としてのスチール缶を含む集団回収を通じて環境教育に取り組む小学校及び中学校への支援事業」（スチール缶リサイクル協会、2023年4月21日）
- ・「令和5年度建設副産物リサイクル広報用ポスター」（建設副産物リサイクル広報推進会議、2023年7月24日）
- ・「2023建設リサイクル技術発表会技術展示会」（建設副産物リサイクル広報推進会議、2023年10月23日）
- ・「第18回容器包装3R推進フォーラム」（3R推進団体連絡会、2023年11月24日）

（2）出展

- ・第17回3R推進全国大会 in 秋田（環境省、3R活動推進フォーラム）
開催日時： 2023年10月25日
開催場所： あきた芸術劇場ミルハス 中ホール（秋田市内）、現地で説明

（3）共催

- ・循環・3Rリレーセミナー（3R活動推進フォーラムとの共催、2024年2月16日）

2023年度事業報告書及び決算報告書

4) 3R推進協議会事業活動の広報強化

(1) 「3R推進功労者等表彰」推薦応募の掘り起こしについて

- ・ 2021年3月にNEW環境展及び併設された技術展を訪ね、興味深い取組を行っている企業に対して、表彰のご案内をした。
- ・ 推薦機関などが見つからない応募希望に対しては、事務局から推薦機関（会員団体）や都道府県等に対して仲介を行った。

(2) ホームページの更新

- ・ 年度内に行った事業の成果物については、都度ホームページで公開した。
また、会員団体からのお知らせ、3Rに関連する協議会の内外の情報やオンラインセミナーの紹介をトップ画面の新着情報で行った。

2023年度事業報告書及び決算報告書

B. 決算報告

収入は予定どおりであったが、支出は予算に比べて若干減となった。
年度内の資産の増減という点では、25万円ほど減少した。

ほとんどの支出項目において予算より支出が少なかったが、管理費については増加した。
これは事務局（産業環境管理協会）の移転に伴う3Rキャンペーンマークの冊子『リデュース・リユース・リサイクルキャンペーンマーク使用の手引き』のリニューアル（住所、年号などを最新化）費用による一時的なものであり、この要素を除いた場合には予算内で収まっている。

また、当年度は企画運営委員会、表彰の審査委員会のそれぞれにおいて対面式の会議を開催しなかったため、支出がなかった。これらは対面式を望む声もあるので、継続して予算化を考えていく必要があると思われる。

収支決算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録及び計算書類に対する注記は、次ページ以降のとおりである。

2023年度事業報告書及び決算報告書

B. 決算報告（続き）

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会
2023年度収支決算書
自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日

（単位：円）

科 目	予算額	決算額	差 額	備 考
I 収入の部				
1. 会費収入	4,050,000	4,050,000	0	※入会1団体、退会1団体
2. 雑収入（受取利息収入等）	0	54	54	
3. 前期繰越収支差額	5,498,000	5,498,914	914	
当期収入合計（A）	9,548,000	9,548,968	968	
II 支出の部				
1. リデュース・リユース・リサイクル 推進功労者等表彰事業の実施	3,600,000	3,312,592	△ 287,408	委員会関係費、推薦要領・表彰結果冊子印刷費・発送費、表彰 状作成費、表彰式会場費等
2. 3Rキャンペーンマークの普及	0	0	0	費用発生なし
3. 企画運営委員会経費	100,000	0	△ 100,000	委員会等は、オンライン形式で開催
4. 3R推進事業費	1,000,000	887,786	△ 112,214	Webサーバーレンタル費、ドメイン名使用料、優秀3R推進事例 発表会、3R推進ポスター（作品募集、印刷、賞金）、3R活 動推進フォーラムとの共催イベント、3R推進全国大会への出 展
5. その他経費	0	0	0	総会・理事会開催費用（オンライン開催のため、支出なし）
6. 事務局経費	0	0	0	上記1～5に係る事務局経費（人件費及び事務局運営諸費用）。 実際に発生した事務局経費は、協議の結果、産業環境管理協会 が負担
7. 管理費	100,000	109,481	9,481	通信費、消耗品購入費、振込手数料等（直接事務に係る費用の み。事務局運営諸費用を除く）
当期支出合計（B）	4,800,000	4,309,859	△ 490,141	
当期収支差額（A）－（B）	4,748,000	5,239,109	491,109	

2023年度事業報告書及び決算報告書

B. 決算報告（続き）

正味財産増減計算書

（2023年4月1日から2024年3月31日まで）

（単位：円）

科目	金額
I 増加の部	
当期経常収益	4,050,054
増加額合計	4,050,054
II 減少の部	
当期経常費用	4,309,859
減少額合計	4,309,859
当期正味財産増減額	-259,805
前期繰越正味財産額	5,498,914
期末正味財産合計額	5,239,109

貸借対照表

2024年3月31日現在

（単位：円）

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
現金	15,602	未払金等	281,030
普通預金	5,424,537		
未収入金	80,000		
前払費用等	0	III 正味財産の部	5,239,109
合計	5,520,139	合計	5,520,139

2023年度事業報告書及び決算報告書

B. 決算報告（続き）

財産目録 2024年3月31日現在

（単位：円）

科目	金額
I 資産の部	
現金 現金手許残高	15,602
普通預金 三菱UFJ銀行本店	5,424,537
未収入金	80,000
前払費用	0
資産合計	5,520,139
II 負債の部	
未払金等	281,030
負債合計	281,030
正味財産	5,239,109

計算書類に対する注記（2023年度）

1. 重要な会計方針

(1) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金、預金、未収入金、前払費用及び未払金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は2.に記載のとおりである。

(2) 消費税は、税込方式を採用している。

2. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

（単位：円）

科目	前期末残高	当期末残高
現金	17,282	15,602
普通預金	5,073,462	5,424,537
未収入金	0	80,000
前払費用	436,920	0
（合計）	5,527,664	5,520,139
未払金	28,750	281,030
（合計）	28,750	281,030
次期繰越収支差額	5,498,914	5,239,109